

令和7年度 北九州市総合教育会議 [協議1]

# 新たな学びの方向性について

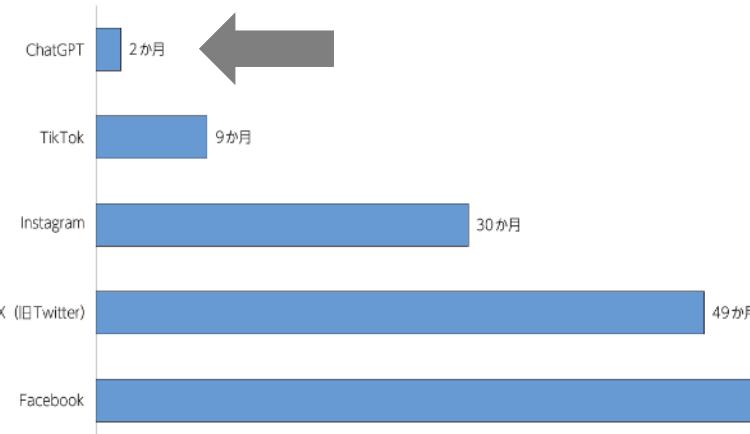
令和7年12月16日  
学校教育部

# 予測困難で「正解のない」時代の到来

- 社会の在り方を根底から変え得る革新的な技術の登場や、ライフコースから日々の消費行動に至るまで、あらゆる価値観の多様化が急速に進む中、今後、より予測が困難で、決まった正解のない時代の到来が見込まれる。
- このような時代を生きていくこどもたちは、生涯にわたり学び続け、自らの個性と可能性を存分に發揮するとともに、自ら「問い合わせ」を立て、多様な他者と協働しながら解決策を見出していくことが必要となる。

- ◆ 「革新的な技術」の一例として、生成AIがある。代表的な生成AIサービスであるChatGPTは、公開からわずか5日でユーザー数100万人に達し、2か月後には同1億人を突破するなど、驚異的なスピードで拡大している。
- ◆ 国際労働機関(ILO)は、生成AIが雇用に与える影響について分析したレポートにおいて、世界の総雇用の24%が、生成AIの影響を受けると推計している。

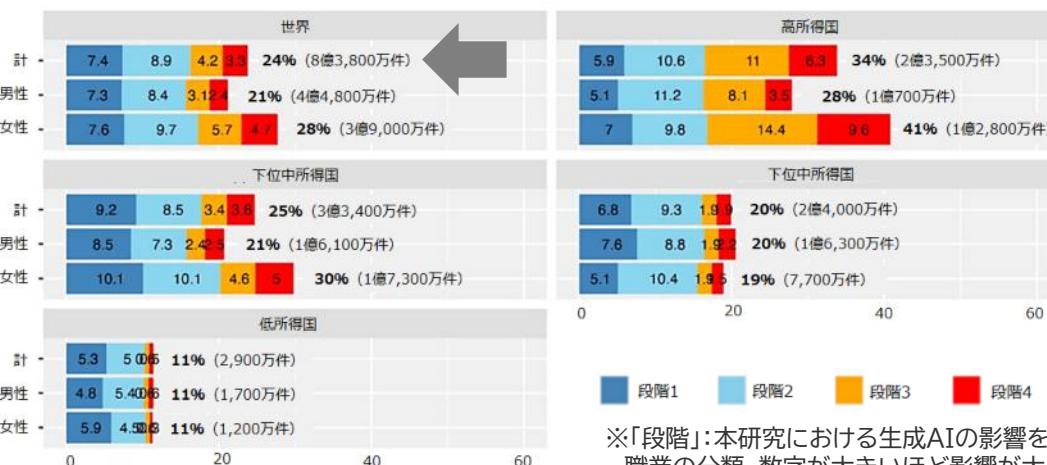
各種サービスにおける1億ユーザー達成までにかかった期間



(出典) Reuters等を基に作成

出典)総務省「令和6年版 情報通信白書」より

生成AIによって影響を受ける雇用の割合と件数

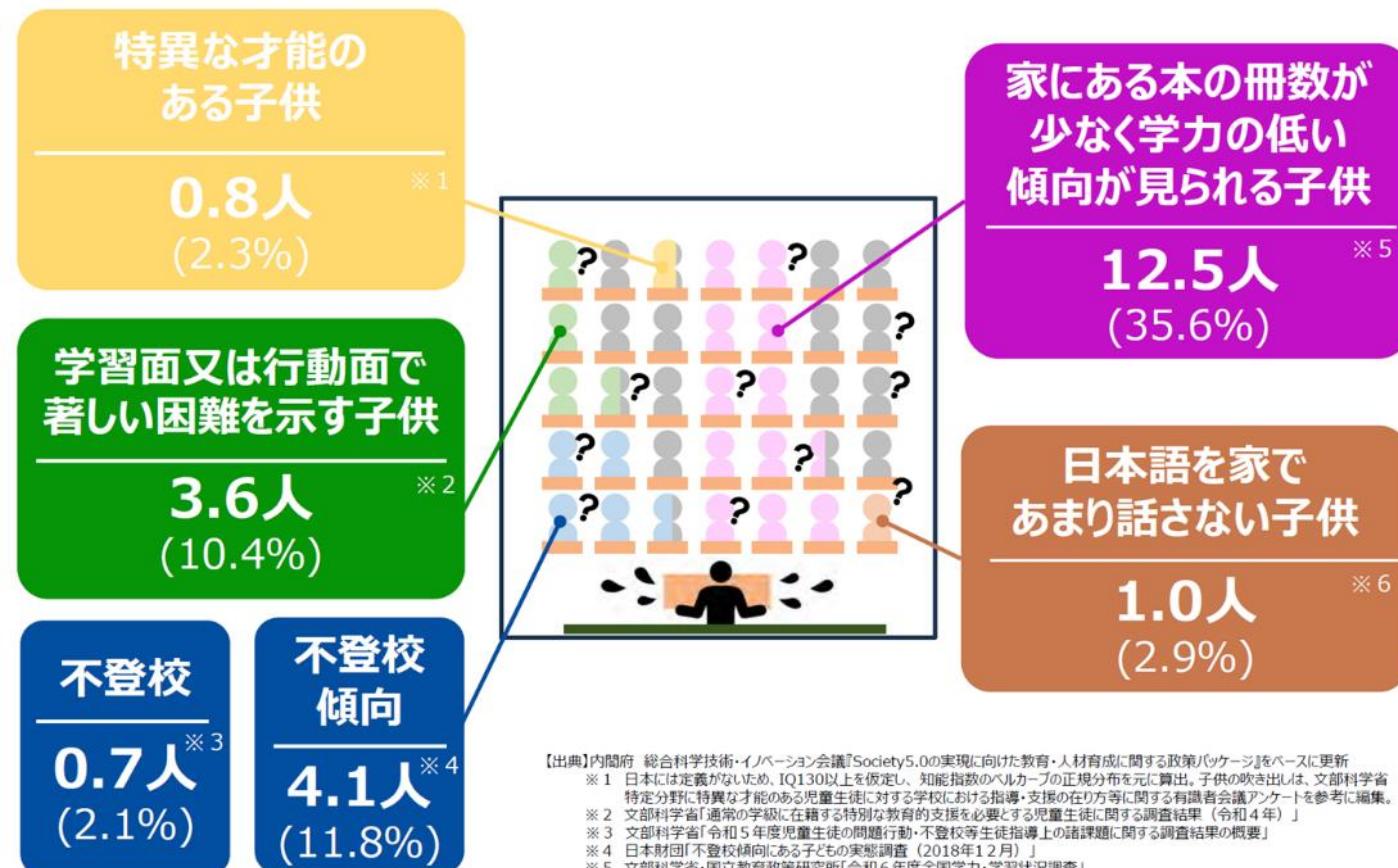


※「段階」:本研究における生成AIの影響を受ける職業の分類。数字が大きいほど影響が大きい。

出典)独立行政法人労働政策研究・研修機構「世界の雇用の4分の1が生成AIに代替される可能性—ILO研究ブリーフ」

# 小学校35人学級における多様性

- 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒、外国人児童生徒や特異な才能を有する児童生徒等、支援を要することものの数は増加傾向であり、一つの教室にいるこどもたちの多様性は増している。
- こうした多様なこどもたちが、一人ひとりに合った学びを通じ、それぞれの得意や才能を伸ばしていくとともに、互いに異なる個性や特性を理解・尊重し、つながり学び合う姿勢を涵養していくことが重要である。



出典)文部科学省「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」(諮問)参考資料

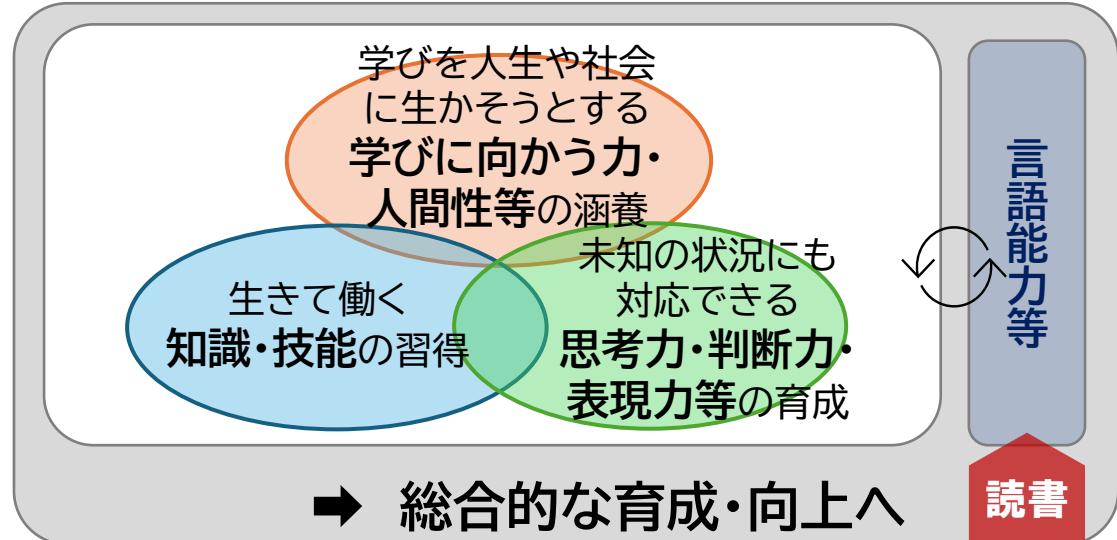
1人1人を大切にする学力向上(資質・能力の育成)を実現する学びの改革

3つのアプローチ

- ①「AI+読書」の強化
- ②「体験機会」の強化
- ③「脱・暗記重視」



学習の成果



## 「正解のない時代」に生きる力の涵養

- 自ら進んで学び続けること
  - ・自分で問い合わせ、解決する
  - ・学ぶ意味や目的を知り、楽しむ
- 「伸びしろのあること」
  - ・本来持っている可能性の発揮

- 学ぶことへの興味・関心
- 対話による考え方の深まり
- 知識の関連付け、創造的学び

学習の過程

A I

## 主体的・対話的で深い学びの実現

誰一人取り残さない学び

個別最適な学び

- ✓ 子どもの理解度や習熟度等に応じた「オーダーメイド」の学び
- ✓ 個々の興味・関心も踏まえ、自分なりの価値観・哲学を築いていく学び

こどもが主語の【授業改善】

各学校種を通じて、様々な授業形態を柔軟に組合せ、  
一體的に充実

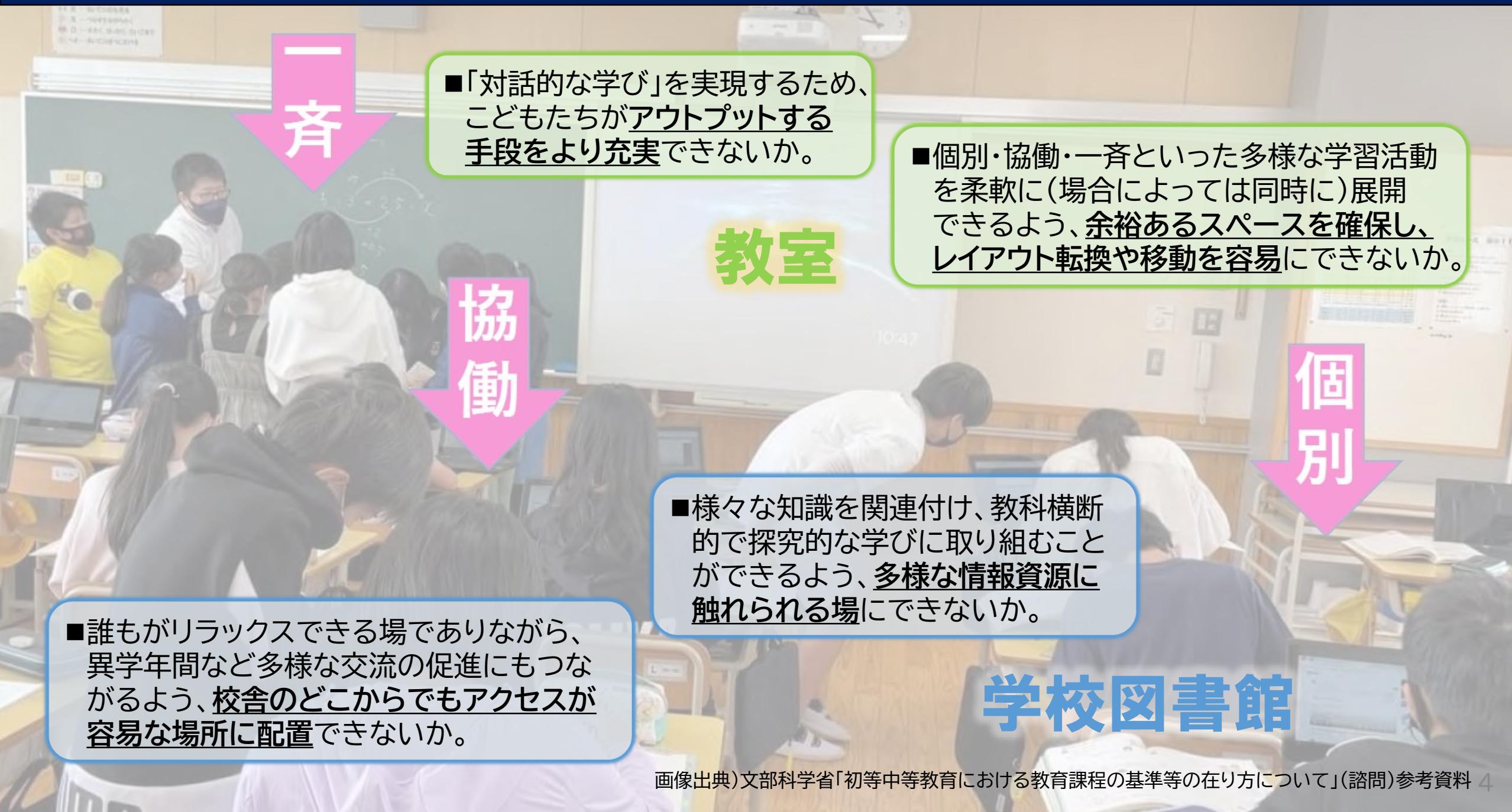
先端的な学び

協働的な学び

- ✓ こども同士や、地域や民間企業等の多様な人材との協働
- ✓ 他者への思いやりや多様性の理解を基盤に、つながり学び合う活動

体験機会

「脱・暗記重視」  
(探究的な学習)



# 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析

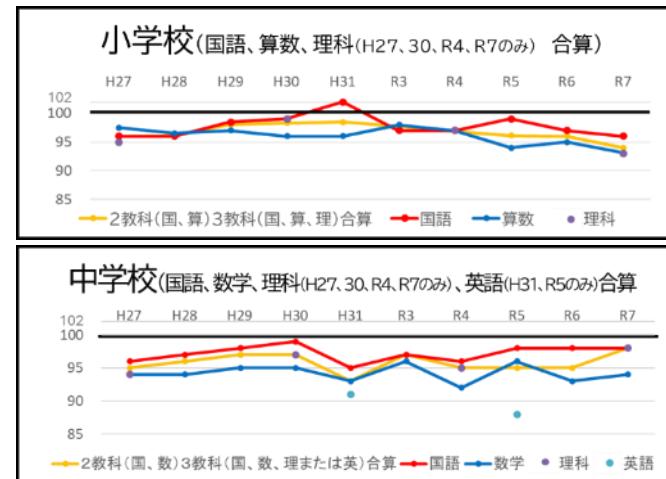
- 小学校・中学校ともに、正答数・正答率の本市平均は全国平均を下回る結果となっている。
- 平成27年度調査以降の結果を経年比較すると、全国平均を上回る又はその近傍値となる調査年度もあったものの、ここ数年は、全国平均からやや乖離した結果も見られる。
- また、第1四分位の子どもの正答数は全国と同じだが、第2・第3四分位の子どもの正答数は全国に届かない。
- さらに、特に北九州市の児童生徒は、「目的に応じて文章を読み、必要な情報を捉える力」(読解力)や、「根拠を明確にして説明する力」(説明する力)に特に課題があると考えられる。

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査結果(概況)

令和7年度	小学校 国語			小学校 算数			小学校 理科		
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合
本市平均	8.9 / 14 問	64%	96%	8.6 / 16 問	54%	93%	9.1 / 17 問	53%	93%
全国平均	9.4 / 14 問	67%		9.3 / 16 問	58%		9.7 / 17 問	57%	
令和7年度	中学校 国語			中学校 数学			中学校 理科		
	正答数	正答率	割合	正答数	正答率	割合	平均IRTスコア	割合	
本市平均	7.4 / 14 問	53%	98%	6.7 / 15 問	45%	94%	492		98%
全国平均	7.6 / 14 問	54%		7.2 / 15 問	48%		503		

※割合…全国平均正答率に対する本市の平均正答率の割合をいう。

## ◆全国平均正答率に対する割合(H27~R7)



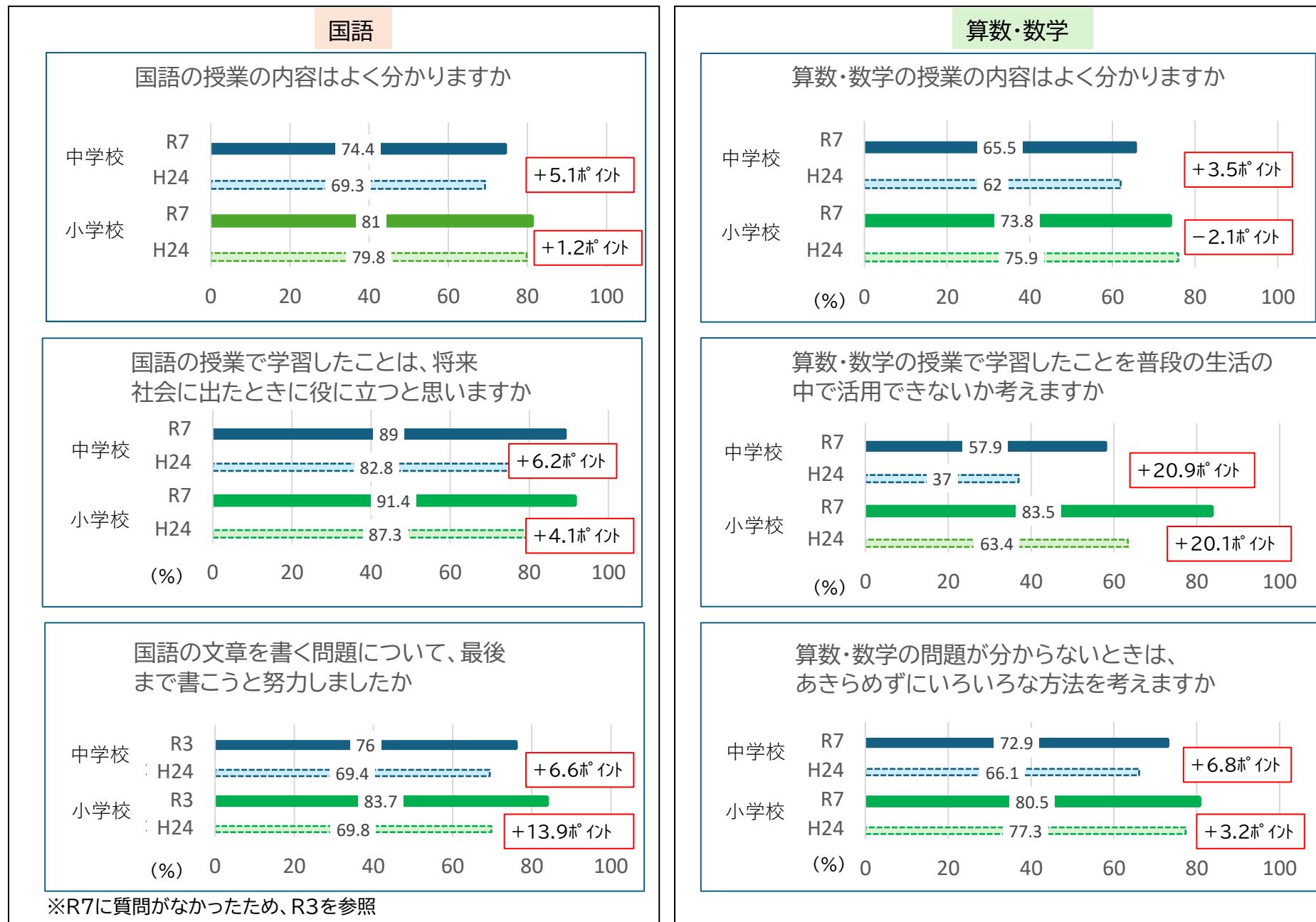
## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査結果(四分位数・小学校)

		第1四分位 (下から25%) の正答数	第2四分位 (中央値) の正答数	第3四分位 (下から75%) の正答数
国語	全国	7問	10問	12問
	北九州市	7問	9問	11問
算数	全国	6問	10問	13問
	北九州市	6問	9問	12問

## ◆令和7年度全国学力・学習状況調査結果【国語】正答率(抜粋)

出題の趣旨	児童【小6】		生徒【中3】			
	北九州市 (A)	全国 (B)	A-B	北九州市 (A)	全国 (B)	A-B
文章を読む目的 を明確にして必要 な情報を捉える	52.5%	56.3%	-3.8 ポイント	15.6%	17.1%	-1.5 ポイント
伝えたいことの 根拠を明確にして 書くこと	56.9%	61.3%	-4.4 ポイント	31.0%	31.0%	±0

# 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査 肯定的回答の割合(各年・北九州市)



# 令和7年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査結果より

		北九州市	(参考)全国
主体的 対話的 個別最適 協働的	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間※、勉強をしますか －「30分より少ない」又は「全くしない」答えた子どもの割合	児童【小6】  生徒【中3】	25.0%  29.4%
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか －「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と答えた子どもの割合	児童【小6】  生徒【中3】	87.4%  85.1%
	分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか －「できている」又は「どちらかといえば、できている」と答えた子どもの割合	児童【小6】  生徒【中3】	78.4%  69.8%
	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか －「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と答えた子どもの割合	児童【小6】  生徒【中3】	78.4%  72.2%
	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか －「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と答えた子どもの割合	児童【小6】  生徒【中3】	83.3%  81.6%
	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか －「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と答えた子どもの割合	児童【小6】  生徒【中3】	81.6%  77.2%
	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか －「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と答えた子どもの割合	児童【小6】  生徒【中3】	90.5%  90.2%
			18.4%  18.9%  87.3%  83.7%  81.8%  77.6%  80.3%  77.8%  84.9%  84.8%  83.4%  79.3%  91.9%  91.9%

※学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。

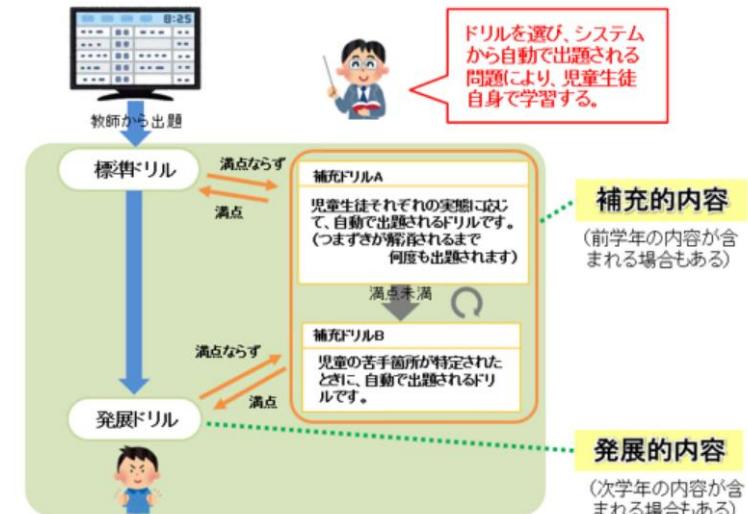
## AI利活用推進の取組

### AI型学習アプリ(特長)

- **個別最適化された問題を出題**  
学習状況をAIが解析し、一人ひとりに合わせた問題を提示。苦手の克服や得意分野の伸長が効果的に進む。
- **即時フィードバックと学習データの自動収集等**  
解答後、すぐに正誤や解説等を確認でき、学習効果が高まる。また、子どもの解答時間や正答率等のデータも、即時に収集・分析され教師の指導や負担軽減に資する。
- **場所を問わずに学習できる利便性の高さ**  
一人一台端末に導入して利用。オフラインで利用可能なものであれば、場所を選ばず学習できる。

R8予算要求中

### ◆AI型学習アプリの機能・活用のイメージ(※一例)



出典)文部科学省 ホームページより  
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/skillup/19.html>

### 授業における生成AIの利活用

こどもたち一人ひとりに最適化された学習を支援し、学力向上及び学習の動機付けの強化を図る観点から、例えば、英作文や英会話の練習における活用など、市内学校の授業における生成AIの利活用推進について検討する。

読書活動  
推進の取組

学校まるごと  
図書館

教室や廊下、空きスペース等、学校のいたるところに読書コーナーを設け、いつでも本を手にできる環境を整備。

ビブリオ  
バトル

参加者が自分のおすすめの本の魅力を紹介し合い、紹介を聞き最も読みたくなつた本を投票で決めるイベントを開催。

## アラカルト方式による校外の体験活動

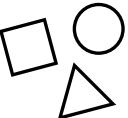
市内の60を超える体験施設(博物館、工場、市議会棟など)から、学校が子どもの意見も聞きつつ、アラカルト方式で行き先を自由に選択

<施設例>



## スー1★GP

現役の大学教授が作成した数学の問題に、中学生が3人1組のチームで挑戦



## みらい探究プロジェクト事業

ロケット発射実験、風力発電実験、ミニハウスづくり等のプログラムにこどもたちで取り組む



## KitaQ Girls Tech事業



理工系を志す女子を  
メインターゲットに、  
サイエンスエンターティナーによるショー等を開催



## 【参考】「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、「平均正答率」が高い傾向

